




研究者名※	池田 和弘 IKEDA Kazuhiro	学位※	修士(社会学)
所属※	人間社会学部 現代社会学科	職名※	講師
連絡先	ikedak@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/ikedak		
研究分野※	社会科学／社会学／社会学		
研究キーワード※	環境・公害		
共同研究・競争的資金等の研究課題	日本学術振興会 基盤研究B(研究代表者:長谷川公一(尚絅学院大学)) 研究分担者として参画 「気候危機とエネルギー政策をめぐる政策ネットワークの国際比較研究」(2021年度~2023年度)		
社会貢献・産学官連携活動等	なし		
受賞歴	なし		

研究領域	社会科学／社会学／社会学 環境・公害	(SDGs)	
研究テーマ※	気候変動対策の理論社会学的考察		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 気候変動に関する社会科学的研究は数多く存在するが、政策論や対策の実際に関するものが多く、その社会学的な意味については未だあまり深く考察されていない。本研究は特に、気候変動が国際社会で大きく取り上げられるようになった京都議定書以降の流れの中で、中国・インドなどの新興経済圏が著しく成長を遂げるなど、温室効果ガス排出量の日本の寄与分が低下する局面における、私たち日本社会の反応を具体的な素材とする。議論の焦点は政策論や対策の実際もさることながら、私たちがいわゆる「加害者として」大きく関わることが自明ではなくなった中での、コミュニケーションや倫理といった社会のソフトな面での反応をめぐるものになる。</p> <p>【応用例、研究の展望】 研究者の関心が気候変動にあるので、具体的な素材は気候変動を中心としたものになるが、そこで展開される社会学的な考察は広い範囲に應用が効くと考えている。先の問題関心では、絶対的な責任を帯びているとは言い切れない状態におけるコミュニケーションや倫理を考察するものより広く一般化することができるが、たとえば、国内政治と有権者の関係は、この形にかなり近接していると考えられることできるだろう。</p> <p>【研究方法の特色】 研究方法としては広く社会学的な考察、特に理論社会学における先行研究の應用、進化が目指されているが、事象における経験的な側面については、統計分析を大幅に活用するため、データと理論の対話的活用が本研究における大きな方法論的な特徴である。</p>		
本研究関連特許・論文等	・池田和弘, 2022, 「気候変動と近代のパンドラの箱: 歴史の累積効果を現在で解く」庄司興吉編『ポストコロナ期の社会学へ』, 新曜社(近刊)		
共同研究・外部機関との連携への期待	・気候変動政策の国際比較調査 ・気候変動政策の市民意識調査		